

10 | にぎわい・スポーツ・文化



現状と課題

- 横浜を取り巻く状況と課題 -

○更なるにぎわいづくり

- ・2024（令和6）年の横浜市の観光消費額及び観光入込客数は、回遊促進等のこれまでの取組により過去最高となりましたが、平均消費額の高い宿泊客が日帰り客に比べ少ないと、また日帰り客の平均消費額が伸びていないことが課題です。経済の活性化に向け、観光入込客数と平均消費額を増加させ、観光消費額を伸ばしていくことが重要です。
- ・都心臨海部を中心とした観光資源の魅力の向上やクルーズ船の発着が多い特長を生かすことにより、市民の皆様により楽しんでいただくことはもとより、インバウンドを含め国内外の更なる誘客を促進し、宿泊の促進や滞在時間の延長を図っていくことが重要です。
- ・また、郊外部においても、住民の愛着を育む地域毎のにぎわいづくりや、新たな活性化拠点の形成など、エリアの特性に応じたにぎわいを生み出していくことが重要です。

○スポーツを「する」「みる」「ささえる」「ふれる」機会

- ・横浜市民スポーツ意識調査によると、必要性を感じ、関心や意欲がありながらも「する」「みる」「ささえる」スポーツ活動に十分に取り組めていない市民が多く、スポーツに「ふれる」機会も課題です。また、共生社会の実現に向け、年齢や性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツに親しめる環境の整備が重要です。

○文化活動環境

- ・文化団体等の多くの担い手やネットワークにより文化活動が多様化すると共に、市内文化施設において地域の催しが盛んに行われていますが、より広い市民を対象として各地域で活動に取り組める環境づくりを推進していくことが重要です。次世代育成や共生社会の実現に向けて、年齢や性別、障害の有無等に関わらず、誰もが文化芸術に触れることのできる環境づくりが重要です。

目指す姿

- 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・ウォーターフロントを生かしたアーバンリゾートの魅力向上により、国内外から観光客を呼び込み、消費の拡大により地域経済が活性化され、活力・魅力のあるまちとなっています。
- ・年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、市内の各地域で隔たりなく、誰もが、スポーツや文化活動に参加できる機会や楽しめる環境が充実し、また、それらを通じて共に認め、支えあうコミュニティが実現することで、市民が生活の質の向上を実感できています。

政策指標

-市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

観光やスポーツ・文化により、
にぎわい・活力のあるまち
だと思いますか

調査中 (原案で掲載予定)



観光・MICEの振興に向けた取組、スポーツの振興に向けた取組、文化芸術の振興に向けた取組に関する個別分野別計画等

横浜市観光・MICE戦略

横浜未来の文化ビジョン

横浜市スポーツ推進計画



【関連するSDGsの取組】



21 観光・MICE

世界を魅了する国際観光都市の実現に向け、戦略的な誘客プロモーションやMICE誘致、都心臨海部を中心とした、夜景を含めた水際線の魅力向上等を通じた戦略的な回遊性向上やクルーズ船の誘致などにより、宿泊の促進や滞在時間の延長を図るなど、にぎわい創出や観光・MICEを推進することで、市内経済を活性化させると共に、まちの活力・魅力を一層高めます。

観光消費額【にぎわいスポーツ文化局】 現状 4,564億円 → 目標 5,500億円
 (R6時点)

クルーズ船寄港数※【港湾局】 現状 147回 → 目標 220回
 (R6時点)

観光都市としての横浜市に誇りを感じる市民の割合【にぎわいスポーツ文化局】
 現状 調査中 → 目標 - %

観光入込客数【にぎわいスポーツ文化局】 現状 3,773万人 → 目標 4,000万人
 (R6時点)

臨海部の夜景を魅力的と思う市民の割合【にぎわいスポーツ文化局】
 現状 調査中 → 目標 - %

延べ宿泊者数【にぎわいスポーツ文化局】 現状 980万人泊 → 目標 1,100万人泊
 (R6時点)

22 スポーツ

心豊かな市民生活の実現を図るため、スポーツを身边に感じられるまちの実現を目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことや、それらのきっかけとなる「ふれる」機会を創出すると共に、地域に根ざしたスポーツの振興や大規模スポーツイベントの誘致開催等、市民の多様なスポーツ環境の充実に取り組みます。

横浜市はスポーツの参加機会や楽しめる環境が充実していると思う市民の割合※
 【にぎわいスポーツ文化局】 現状 調査中 → 目標 - %

23 文化芸術

心豊かな市民生活の実現を図るため、横浜の強みを生かした横浜文化の創造を目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もが文化活動に取り組める環境の整備、市全域における身近な地域での文化を通じた地域コミュニティの形成、様々な主体との連携による創造性を生かしたまちづくり等によるにぎわいづくりを進めます。

横浜市は文化の参加機会や楽しめる環境が充実していると思う市民の割合※
 【にぎわいスポーツ文化局】 現状 調査中 → 目標 - %

【関連データ等】

●「観光入込客数(実人数)」及び「観光消費額」の推移



●こどもの頃の体験の有無と大人になってからの活動の割合

